

舌吻側 2/3 切除術を実施した舌扁平上皮癌の犬の 1 例

渡部あい¹⁾ 福井 翔²⁾ 小松崇弘¹⁾ 田村 純²⁾
平山和子³⁾ 谷山弘行^{1), 3)} 廉澤 剛^{1), 2), 3)†}

- 1) 酪農学園大学大学院獣医学研究科 (〒 069-8501 江別市文京台緑町 582)
- 2) 酪農学園大学附属動物病院 (〒 069-8501 江別市文京台緑町 582)
- 3) 酪農学園大学獣医学部 (〒 069-8501 江別市文京台緑町 582)

(2009年8月5日受付・2010年2月12日受理)

要 約

12歳の雄のウェルシュ・コーギー・ペンブロークが舌腹側の扁平上皮癌を主訴に来院した。腫瘍は舌小帯付着部正中に存在し、腫瘍の完全切除を目的に舌吻側 2/3 切除術を実施した。術後は胃瘻チューブによる栄養管理が必要であったものの、術後 1 カ月半後には自力での飲食が可能であった。術後 6 カ月後に肺転移にて死亡したが、舌吻側 2/3 切除により局所再発なく、飼い主が満足できる QOL が維持できた。——キーワード：犬，舌，扁平上皮癌。

----- 日獣会誌 63, 458~462 (2010)

† 連絡責任者：廉澤 剛 (酪農学園大学大学院獣医学研究科獣医臨床腫瘍学研究室)

〒069-8501 江別市文京台緑町582 ☎・FAX 011-388-4889 E-mail : kado@rakuno.ac.jp